

市長の ふれあい訪問



「川口市ラグビーフットボール協会」

平成9年に設立され、現在7団体、約300人の会員で構成。大会や講習会の開催、高校生強化試合、ジュニア強化練習を実施するなど、競技力の向上、普及・促進を目的に活動している「川口市ラグビーフットボール協会」を岡村市長が訪問。その活動内容などをお聞きしました。

市長 みなさんこんにちは。本格的な春の訪れが待ち遠しい、弥生3月を迎えました。今月の市長のふれあい訪問は、「川口市ラグビーフットボール協会」のみなさんです。どうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめにお聞きしますが、ラグビーフットボール協会は、何年に発足したのですか。

小嶋 平成9年に発足しました。現在は、協会チームやスクール生徒の母親で結成した女性チームなど、7団体が加盟しています。

市村 ラグビー団体が一つにまとまれば、団体相互の協調と親睦が、さらに図れるのではとの思いから、この協会を立ち上げました。

市長 この中で、最長老の西さんにお聞きしますが、現在も、ラグビーをなさっているのですか。

西 75歳になりましたが、まだまだ現役です。昭和21年から現在まで、60年以上続いています。

市長 「ハニーズ」という女性チームがあるそうですね。

太田 5年前に、スクールに参加している子どもたちの母親が集まり発足しました。女性だけのチームは少ないので、川越などへ遠征試合に出かけます。たまに、子どもたちのチームとも試合をします。

市長 協会には、委員会などを設けているのですか。

木村 高校・中学生のレベル向上を目的とした強化委員会、子どもたちにラグビーを好き

になつてもらうための普及・育成委員会などがあります。

長谷川 一昨年に、この協会が中心となって「リリー・アスレチック・クラブ」という総合型地域スポーツクラブを設立しました。

市長 そのクラブは、具体的に、どのような組織のですか。

小嶋 総合型地域スポーツクラブで、ラグビーが中心となつてはいますが、太極拳教室なども行い、「荒川河川敷のグラウンドへ行けば、家族でスポーツが楽しめる」、そんなクラブを目指した地域密着型のクラブです。

市長 白鳥さんは、学生時代からラグビーをやっていたのですか。

白鳥 はい、高校から始めました。現在は、「ワラビズ」という社会人クラブチームに入っています。

市長 ラグビーの魅力を一言で言うとはどうでしょうか。



矢部 自己犠牲の精神、体を張ってタックルしてボールを奪い、味方を優位にするところが魅力だと思います。

市長 ノーサイドという言葉は、ラグビーにしかありませんよね。試合終了後は敵も味方もないという意味もあり、すてきな言葉ですね。ほかには、どのような活動をされているのですか。

木村 タグラグビー教室を開催しています。タグラグビーとは、タックルを行わないラグビーのことで、腰に付けた2本のタグを取り合い、相手ゴールを目指す競技です。小学校の体育の授業にも取り入れられており、市内の小学校で指導しています。

市長 スポーツを通しての青少年活動を、これからも続けていただければと思います。

最後に、今後の抱負などがありましたら、お聞かせください。

小嶋 私の夢ですが、将来、荒川河川敷のグラウンドを緑いっぱい、芝生にして、誰もが安全にスポーツが楽しめる場所になったらいいなと思っています。

市長 この輪を広げて、これからも頑張っていたいただければと思います。私も、ラグビーファンの一人として応援させていただきます。今日はありがとうございました。

